

令和6年度 幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和6年5月29日（水）15:00～17:00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：帝京科学大学 非常勤講師 日色 智絵 氏



幼児期の教育は・・・

- 生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの。
- 幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。



幼児教育において育成すべき資質・能力

知識及び技能の基礎

豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分ったり、できるようになる。



思考力、判断力、表現力 などの基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり試したり、工夫したり表現したりする。

学びに向かう力、人間性など

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

遊びを通して3つの
力を一体的に育む
（基礎の育成）

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

社会生活と
の関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字へ
の関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と
表現

子どもたちの遊び
を10の視点から
見ていくと新たな
視点で見えてくる
ものがある。

幼児期に『遊び込む』経験が大事



なぜ、遊び込む経験が必要？



遊び込む経験を
実現するためには・・・



○子どもの気持ちを汲み取り、適切な
タイミングで援助する。

➡一人一人の遊びの理解

○時間・空間・道具などの環境

○横並びのまなざし→子どもの見る
世界を共に見ること、目の前の
子どもの理解をしていく。

3つの視点を踏まえた学びの過程（環境を通して行う）

深い学び

気付き・発見・比較・
予測・規則性・感触・
感覚・分類・試行錯誤

対話的な学び

自己表現・感情・共感・
思いの伝え合い・葛藤・
折り合い・協力話し合い

主体的な学び

安定感・安心感・興味・
関心・必要感・見通し・
粘り強さ・持続性・探求心・
自己肯定感・好奇心・自発性

学びは、3つの視点が関連し合って培われるものである。

一人一人の視点で見えていくと、違った視点で見えてくるものがある。そこを大切にしていく。

非認知能力・認
知能力が高まり、
主体性や自己肯
定感につながる。



『遊び込む』経験が、
学びの土台につながる。



研修生の
報告書より

子どもたちが興味をもっているもの、好きな遊びは何かを、子どもたちの姿を見取りながら保育者も一緒に遊びを楽しんだ。砂場で雨どいを使った遊びは特に、「どのように組み立てれば水がうまく流れるか」を友達同士でやり取りをして考えながら配置したり、水を運ぶ役割になる子がいたり、砂場に山を作って雨どいを通してみたいとやってみたりと、それぞれの遊びが継続し、楽しんでいた。子どもたちと同じ目線になり、何を面白がって楽しんでいるのかを一緒に遊びながら感じ、見守っていくことから、遊び込む経験に広げられるようにしたい。

主体的な子どもの姿を捉えようとする中で、本当に子ども主体の生活が送れているのか自身に問いかけながら保育を進めていった。普段良かれと思い掛けている言葉が、保育者が先行したものになっていたことに気付いた。自分の保育を毎日振り返りながら、次の保育につなげていきたい。